

## 「アポカリウス号の災難!？」

担当DM:DM - SKM

レポート作成者:DM-SKM(R2 氏メモより)

アルタン(ソウルナイフ) 宮之下氏  
ティアリス(パラディン) R2 氏  
グリーン(スパイマスター) Nightingale 氏  
バルバドス(クレリック) やま氏  
インプレス(ファイター/ローグ) K 氏  
エルネスト(エレメンタル・サーヴァント)中荘氏

### 「こいつはイカじゃねー!!」

古代の秘宝(実はソウル・ジェム)が眠るというレイド島へ冒険に出かけた冒険者ご一考。ギルドの紹介でアポカリウス号へ載るはずが、ギルドの下手際でアポカリウス号へ載ってしまう(笑)

で、実はこの船が「イカ狩り」の船でした(アホな…笑)。「イカ釣り」ではなく「イカ狩り」です(笑)いわゆる「大イカ(ジャイアント・スクイッド)」を刈るための船ですな(輪をかけてアホな…笑)。

まあ、港付近を困らせている大イカを退治したら、レイド島まで運んでくれるそう。イカを狩れば報酬ももらえるので、イカ狩りを楽しみながらの航海となりました。航海は大イカに出会うことなく、おどろくほど順調(?)に進み、やがて夜になる…。

さすがは歴戦の冒険者。交代で見張りにたつことも忘れません。やがて見張りが交代し、夜もふけた頃、スポット判定は全員失敗…が、インプレスが辛うじてリッスンには成功し「バシャ!」と言う水の音に気が付く。見ればそこにいたはずの船員がいらない…すぐにドノバン(船長)に報告しにゆく。

グリーンが何かの黒い影に気が付き、バルバドスが甲板に上がると…巨大な触手が海中からそびえ立っている!!「で、でけえ!!」。触手は手近にいた、船員や冒険者達を次々にグラップルし、苦しめる。そしてグリーンが「チクッ」とダメージを与えると、その巨体が水面に浮かび上がってきた。フェイス 20'x40'を誇る「クラーケン様」ご登場!(拍手!)。「イカかこれえ!!」、「どこがイカだよ!」(PC)、「3rd になってクラーケンはイカになっちゃいましたからねえ」(DM)、「だからイカじゃねえ!」(PC)、「(アニマルコントロールできるし)子分のイカが殺されて、怒ってるみたい(笑)。ゴアァって」(DM)、「なんじゃそりゃ!」(PC)。などと談笑しているうちにも無常にも触手が冒険者に伸びる。AC なんか意味無のアタックロールで次々に餌食にする。船員はバタバタと倒れ、冒険者もバタバタと倒れる。

そんなさなか、バルバドスが息を吐き、フレイムストライクからチャージで 90 ダメージを与える。続いて、エルネストがライトニングボルトを放つが、当のクラーケンは痛みに怒り狂うだけ。クラーケンは痛みの元バルバドスを触手の集中砲火と締め付けで撃破し、エルネストを吹っ飛ばす。それでも、PC の攻撃でダメージが重なり、クラーケンの HP もとうとう 100 を切る。(これはそろそろ撤退時か?)と考え、触手に何体かの「餌」を握ったまま、「墨」を吐いて一面を真っ暗闇に変え、次ラウンドで「ジェット」で海中深くもぐる準備を行う。もはや万事休すなところで、ティアリスがグラップルを抜け出し、フライして上空からチャージ!見事 100 ポイントオーバーのダメージを与えてクラーケンを撃沈させました。

DM 談:当初からクラーケンはHP100を切ったら、ジェットで逃げるを考えていたのですが、まさか一撃で100ダメージとは予想してなかった。墨を吐くことなく、もう1ラウンド早く撤退すべきであったと反省(せっかくだからイカらしいことをしたかったのだ)。ちなみに、モンスターの特殊能力である Imp.Grab は非常に強力です。当時、気がつきませんでした。グラップル最中であってもDEXボーナスを失わず、複数の相手をPINできるなど凶悪。特にクラーケンやそれ以上の巨大なクリーチャーにもなると、ヒットロールも高くこれらによるマイナスはあんまり影響しません。

### 「金属の使者?」

さて、大量の「イカ刺し」(「食べるかー!(怒)」(PC))を手に入れた冒険者であったが、船体は手ひどいダメージを受け、修理が必要な状態。仕方なく、手近な小さい島にある漁港に向かいます。

そこは、不気味なほど静まりかえった寂れた漁村…(笑)人気は全く無く、動くものも見当たらない。と、思って港に上陸すると、なにやら怪しげなロボット風のコンストラクト「クロックワーク」が町を徘徊している。しかも攻撃的だ。手近な宿屋へ一旦避難すると、恐怖におびえる町民(コック)を発見。そのコックの話では、先日の夜、ヒューノイド型のモンスターが金属で出来た化け物を引き連れて、襲ってきたらしい。奴らは(家の外で)動くものを全てを攻撃し、町は一瞬

で制圧されると、若い男 20 人ほどをさらっていったとのこと。また、その昔、この島に邪悪なコンストラクターがいて、今回の件はそれが関係しているのでは？という話しをしてくれる。

詳しく調べるために、教会の本を読みに行く。帰り途中に敵に鉢合わせたが、何とか逃げる。

### 「爆撃！！」

敵の本拠地を偵察すると、砦が建設中であり、裏の港には黒船が停泊していて数多くのクロックワークが積み込み作業中。船に備え付けてあった**“爆雷(イカ狩り用)”**を持ち出して、**フライで空から爆撃**。黒船を炎上させ、施設にかなりのダメージを与える。迎撃に出てきたのは、**黒いクロックワークホラー**で、こいつの武器はなんと**“破壊光線(=ディスイнтеグレート・レイ)”**！戦乱の中、**ガンテが行方不明**になる(プレイヤーの都合により離脱)。

さらに、敵は**巨大なキメラ**を追っ手に差し向ける。ライオンの頭の変わりに**“ティラノサウルス”**の頭をつけたアンバランスなキメラ。「なんか、前のめりで飛んでます…」(笑)

さらに、クロックワークが何体かついてきます。クロックワークは意外とスピードも速く、遠くからでもライトニングボルトをガシガシ放ってくるので、適当なところで迎え撃つことになりました。

戦闘開始直後から絶妙な陣取りでクロックワークがチマチマとライトニングボルトを放ちます。1回のダメージは小さくともレジスタンスや回避能力を持っていないと結構痛い。バルバドスはキメラを切りつけるも、反撃でティラノの噛みつきが命中、**そのままグラッブルされ、飲み込まれる**…。さらに手近にいた**インプレスもペロリ**。腹の中の二人は酸に溶かされながらも必死で攻撃し、何とか吐き出されて一命を取り止め、アルタンがキメラに止めを刺す。キメラを落とされたクロックワーク軍団は総崩れで、確固撃破される。こうして冒険者は追っ手を振り切り、港で一泊する。

DM 談:クロックワークは“クロックワーク ホラー”のことです。ここでは総出演してます(笑)ただし、追ってとして参加したなかには破壊光線の**“アダマンチン”**は含まれていません。コンストラクトの癖に LE な連中で、ホーリーとか効果があるんですよね。一方、キメラは MM2 で追加されたテンプレートを使用。キメラテンプレートといっても真中の頭だけしか選べないので、いまいかなんですが、H サイズまでの頭が適用できるので今回のような楽しいことも出来るわけです。

### 「伝説の視線」

さて、次の日敵の本拠地に乗り込んだ冒険者達は、最初のガーディアンに出会います。インビジビリティしていた**レジェンダリィ・メデューサ**と石像に**カモフラージュ**していた、**ハーフストーンゴーレムのファイター**です。メデューサの視線を避けつつ、ハーフゴーレムに攻撃をかけるが、ハーフゴーレムは持前の頑丈さで、攻撃してくる前衛を切り抜けつつ、後衛に攻撃を集中させる。この戦闘でインプレスが倒れ、絶体絶命の瞬間、タイムホップで未来に飛ばす。残った面子で何とかこれらを撃破。

DM 談:ハーフゴーレムとレジェンダリィは共に MM2 で登場した凶悪なテンプレート。特にハーフゴーレムは酷すぎる。ハーフなのにゴーレムの能力を丸々受け継いでいます。もう**最終兵器に近い凶悪さ**でしょう。レジェンダリィもいけてます。追加能力を選べるんですが、特殊能力の DC+4 とか美味い。このメデューサのゲイズ攻撃の DC はかなり高かったのですが…なんで、1人も石化しないかなあ(涙)

### 「脳みそ」

魔法的エレベーターを使って、地下へもぐり、アルタンが 1 人調査を開始すると…突然サイオニックコンバットを仕掛けられる。部屋の中には**“脚の生えた脳みそ”**…が、2体いる。NWN の第一章でおなじみ(?)の**“インテレクト・デボラー”**。さらにフックホラーとアンバーハルクが応援に駆けつけてくるが、これらは以外に“普通”で一瞬にして撃退する…。

DM 談:私的には「サイオニックコンバット スタン フックホラーのパワーサンダーで武器や防具を破壊」と進むはずだったのですが… + のついた武器は壊せない”ことを指摘され、「ああ、そう言えば…」とあえなく敗退。

### 「亡霊」

さらに奥へと進む前に、わき道に入ってゆくと昔の魔法使いの研究室にたどり着く。どうやら、現在は全く使われず、長い時間放置されていたようだ。僅かに残った、資料から調べると“邪悪なコンストラクター”と思われていた魔法使いは実は世間の役に立つクロックワークを作っていたらしい。いろいろ調べていると、突然部屋が一転し、みるみる当時の状態へと復元してゆきます。そして、机には 1 人の魔法使いが現れる。しかし、何を言っても反応無しで、どうやら過去の映像(幻影)らしい。音声はないが、1 人の騎士風の男が口論の末に魔法使いを殺してしまうところが映し出され、騎士は魔法使いを殺すと何者かに呪い殺されるかのようにその場に崩れ落ちる。再び騎士が立上がったそう姿は**“デスナイト”**であった。そして、彼の影には**“邪悪に充ちた深い闇”**がたたずみ、それはまるでオーカスを連想させた…。

### 「決戦！つーか撤退…」

砦の奥からはなにやら怪しい音(まるで何かの**工場のような**)が響いてくる。そしてその音の最も大きく聞こえてくる大きな扉の前までやってきた。無論、冒険者に礼儀作法なんてありません(笑)一気に蹴破って突入です。(当日は時間が無くて部屋の描写を忘れていました…謝)部屋の中は両側に得体の知れない機関、機械がうごめいています。衝撃を与えたのは、機械に混じってあるうことか人間の体が使われていることです！！それらはクロックワークホラーを生産しているようです。

そして、この部屋を守るのは…目の前には前衛に**ハーフクレイゴーレムのモック**が2体、その後ろに副官の**ブラザット**と護衛を勤める**ルビーゴーレム**こと**サイオンキラー**、部屋の奥には**デスナイト**、**オーカス**の**ネクロマンサー**の姿が見えると言った**豪華な陣容**です。

戦闘開始直後、**ティアリスのチャージ**で**ネクロマンサーを一発で撃破**。だが、デスナイトの反撃で手痛いダメージを食らう。バルバドスは手近にいたブラザットに攻撃。サイオンキラーは特殊能力で今や常識になりつつある、**メタフィジカル・ウェポン**を無力化しようとする。そして、デスナイトとブラザットからは**マインド・ブラスト**が飛ぶ！この一撃によって、パーティー攻撃力の片翼のティアリスがスタンしてしまう。こうなると、かなり**ピンチ**。インプレスがブラザットの攻撃で落ち、バルバドスがサイオンキラーを破壊する。そして続くデスナイトの攻撃はクリティカルとなりバルバドス轟沈。もはや全滅寸前のところで、デスナイトに何者かが表意し、その動きを止める(殺された魔法使いです)。残りの面子でブラザットを何とか倒すも、ハーフクレイゴーレムには手も足も出ず、デスナイトの動かないうちに**心を鬼にして撤退**しました。

DM 談:ブラザットは MM2で追加されたモンスターでその身体的能力に加えサイオニクス持ちという強力モンスター。ここではさらに強化するためにメデューサ同様にレジェンドリィのテンプレートを加えています。サイオンキラーはサイオニクスハンドブックからです。上記にあるように、メタフィジカル・ウェポンの能力を奪ってしまえば、彼自身を傷つけることは非常に困難なので、自己コンボですな。デスナイトはサイキック・ウォリアーを主軸にしたもので、バイオフィードバック付きで、しかも武器はヴァイシャスと言う酷さ…。アンデットにこれは酷かった。ちなみに今回の DM 的コンセプトは「サイオニクスなモンスター & テンプレート活用」でした。見事に DM の思惑にはまってしまった「アルタン」は最後の戦いでえらく苦戦を強いられていたような…。今回は実質パーティー戦力 3.5 と考えると、撤退はしょうがないですね。お疲れ様でした。